

## 平成 27 年度第 2 回臨時理事会議事録

日時 平成 27 年 6 月 20 日 (土) 11:00～12:50  
会場 都市センターホテル 3 階 コスモスホールⅡ

出席者：

理事長：小西 郁生

副理事長：岩下 光利、平松 祐司

理事：青木 大輔、綾部 琢哉、苛原 稔、榎本 隆之、大道 正英、片渕 秀隆、  
加藤 聖子、吉川 史隆、木村 正、工藤 美樹、久保田俊郎、小林 浩、杉山 徹、千石 一雄、  
竹下 俊行、竹田 省、堂地 勉、藤井 知行、峯岸 敬、八重樫伸生、吉川 裕之、若槻 明彦

監事：落合 和徳、嘉村 敏治、吉村 泰典

第 68 回学術集会長：井坂 恵一

特任理事：海野 信也、齋藤 滋、種部 恭子、宮城 悦子

第 68 回学術集会プログラム委員長：伊東 宏絵

第 69 回学術集会プログラム委員長：三好 博史

幹事長：澤 倫太郎

副幹事長：阪埜 浩司

幹事：上田 豊、梶山 広明、加藤 育民、岸 裕司、北澤 正文、桑原 章、佐藤 豊実、  
佐藤 美紀子、下平 和久、関根 正幸、高倉 聡、多賀谷 光、西郡 秀和、西 洋孝、  
西ヶ谷 順子、松村 謙臣、矢幡 秀昭、山下 隆博

議長：佐川 典正

副議長：田村 秀子、光田 信明

名誉会員：宇田川 康博

陪席：久具 宏司

事務局：桜田 佳久、青野 秀雄、小山 圭子

11 時 00 分 理事長、副理事長、常務理事、理事 25 名の全員が出席し定足数に達したため、小西郁生理事長が開会を宣言した。小西郁生理事長が議長となり、議事録署名人として、理事長、落合和徳監事、嘉村敏治監事、吉村泰典監事の計 4 名を選任し、これを承認した。

冒頭に小西郁生理事長より 4 年間の学会運営に関し感謝を併せ挨拶があった。

**小西郁生理事長**「この 4 年間、本会はわが国の女性の健康を守り、産婦人科医療に責任を持つ団体として着実に仕事をしてきた。それが最近の学術集会の成功に繋がっており、日本社会における本学会の信頼度も上がってきているように思う。また国際的にも本会は重要な位置を占めるようになっている。これらは様々なテーマに大変まじめに取り組んできた結果であり、本会の役員、幹事の先生方や事務局に多大なご尽力いただいた結果であり、強く感謝申し上げたい。」

### I. 平成 27 年度第 1 回理事会議事録の承認

原案通り承認した。

## II. 業務担当常務理事報告

### 1) 総務 (岩下光利副理事長)

#### [I. 本会関係]

(1) 会員の動向 なし

(2) e 医学会について

**阪埜浩司副幹事長**「e カードについては、春の学術集会以降、連合や地方の研修会で使っていただき、概ね順調に運営されている。また9月以降の研修については、システムで申請を行い地方で審査した上で登録・公示を行う方式がスタートする。」

(3) 専門委員会

(イ) 生殖・内分泌委員会 特になし

(ロ) 婦人科腫瘍委員会

**青木大輔委員長**「卵巣腫瘍・卵管癌・腹膜癌取扱い規約を作成しているが、内容については婦人科腫瘍委員会に一任いただき、新理事会で通信にて報告したい。」

本件につき特に異議はなく、全会一致で承認された。

(ハ) 周産期委員会 特になし

(ニ) 女性ヘルスケア委員会

- ① ホルモン補充療法ガイドライン 2012 頒布状況について  
6月9日現在、入金済 8,476 冊。

(4) ヒト絨毛性性腺刺激ホルモン (hCG) 製剤の安定供給継続に関する要望書を、6月17日に厚生労働省医政局長、同保険局長および日本医師会長あてに、日本泌尿器学会、日本生殖医学会と連名で提出した。[資料：総務1]

#### [II. 官庁関係]

(1) 厚生労働省

厚生労働省雇用均等・児童家庭局より、平成27年度健やか親子21全国大会(2015年10月7~9日、神奈川県民ホール)の後援依頼を受領した。経済的負担はなく、これを応諾したい。

[資料：総務1-2]

(2) 文部科学省

文部科学省研究振興局から、平成28年度科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞及び若手科学者賞受賞候補者についての推薦依頼を受領した。締切は7月27日である。[資料：総務2]

#### [III. 関連団体]

(1) 日本医師会・医学会

①日本医師会・医学会では、女性医師支援センター事業として昨年に引き続き本年度も「医学生、研修医等をサポートするための会」の共催を実施する。事前申請・承認をもとに総額 30 万円までの支援を行う。[資料：総務 3]

②日本医学会を通して日本医師会より、医師主導による医療機器の開発・事業化支援について本会会員に広く周知してほしいとの依頼を受けた。本会ホームページに掲載して対応したい。  
[資料：総務 3-1]

本件につき特に異議はなく、全会一致で承認された。

## (2) 日本助産師会

日本助産師会から、平成 27 年度助産録改訂委員会の委員として、本会周産期登録拡張検討小委員会委員の吉田敦先生の就任依頼があり、本会はこれを応諾した。[資料：総務 4]

## (3) 日本放射線専門医会

日本放射線専門医会と日本医学放射線学会が共同で、BI-RADS 第 5 版翻訳本を出版することになったとの通知があった。本学会の先生方にも翻訳業務の分担を依頼することがある、とのことである。[資料：総務 5]

## [IV. その他]

(1) 奈良県立医科大学と大塚製薬株式会社が共催で行う、女性ヘルスケア公開講座～女性の健康寿命を延ばすには～（2015 年 8 月 29 日、奈良商工会議所）の後援名義使用依頼を受領した。経済的負担はなく、これを応諾したい。

## 2) 会 計（吉川史隆理事） 特になし

## 3) 学 術（峯岸敬理事）

### (1) 学術委員会

#### (イ) 他団体特別賞推薦依頼について

##### ① 「平成 27 年度日本医師会医学研究奨励賞」

期日までに 2 名の推薦を受けた。日本産科婦人科学会より推薦できるのは 1 名のみのため、学術委員会内に選考委員会を設置し選考を行っている。

### (2) プログラム委員会関連

#### (イ) 第 67 回学術講演会プログラム委員会

#### (ロ) 第 68 回学術講演会プログラム委員会

#### (ハ) 第 69 回学術講演会プログラム委員会

#### 4) 編集 (藤井知行理事)

##### (1) 会議開催

①5月29日に編集担当理事会を開催した。

②7月24日に和文誌編集会議ならびにJOGR編集会議を開催する予定である。

##### (2) 英文機関誌 (JOGR) 投稿状況 : 2015年投稿分 (6月6現在)

Accept	46 編
Reject	330 編
Withdrawn/Unsubmitted	87 編
Under revision	23 編
Under review (審査中)	124 編
Expired	1 編
投稿数	611 編

**藤井知行理事**「昨年のインパクトファクターが1.072と、永らく壁であった1をついを超えた。」

#### 5) 渉外 (木村正理事)

##### (1) 会議開催 なし

[FIGO 関係]

(1) FIGO 理事会 (5月30~31日、於：メルボルン) に本会より木村渉外担当常務理事が出席した。

##### (2) FIGO World Congress 2021 招致活動について [資料：渉外1]

**木村正理事**「FIGO 理事会では Venue Selection に関する Consitution の改訂提案があり、そこでは補助金など財政面からの最もよい案、という表現が入るようになった。そのあと今回の立候補都市のランキングが示され、1位がシドニーで横浜は最下位であった。シドニーは会場費の70%減免と相当額の補助金により大幅な黒字になるという案であり、一方、多数の参加者が来ることで黒字となるとした横浜については、それは仮定の話だとして赤字であるとの判定を受けた。この結果、シドニーのみを総会に上程することが可決された。直前に Consitution を変更してそのルールを適用するのはフェアでないとの動議を出すことも検討したい。また、立候補都市にはビデオプレゼンテーションを求められており、余り金をかけずにビデオを作成して進めることにしたい。」

**小西郁生理事長**「多くの海外の先生方にとっても意外であったようだが、今回の結果が発表されたことで、横浜が開催都市になる可能性は非常に厳しくなった。」

**藤井知行理事**「今後はFIGOについても地道な交流活動が必要になる。ある程度は本会の主張を入れたビデオをお金をかけずに作成するということがよいのではないか。」

木村理事の対応方針につき特に異議はなく、全会一致で承認された。

## [AFOFG 関係]

(1) AOCOG 2015 (6月4~6日、於：マレーシア クチン) に併せて開催された AFOFG 総会にて小西郁生理事長、木村正渉外担当常務理事が本会の投票権 2 票を行使した。

(2) 落合和徳監事が AFOFG Vice President に、加藤聖子理事が Editor-in-chief. JOGR に、近畿大学 万代昌紀先生が Minimally Invasive Gynecologic Surgery Chair に選出された。[資料：渉外 2]

**木村正理事**「本会から、苛原稔先生、水沼英樹先生を Committee Chair として推薦したが、メンバーとして参加いただくことになった。AFOFG の役員になるには論文数より、むしろ AFOFG への貢献度が重要であり、AOCOG で講演を行うなどの地道な活動が必要である。こういったことを戦略的に考えていく必要がある。」

**藤井知行理事**「Committee Chair の件については、海外では我々と全く評価基準が異なる。彼らの CV には教育講演の履歴がずらりと書かれており、それが国際的な知名度に繋がっている。疑問ではあるが、これが AFOFG のルールであるとするならば、AFOFG に多くの貢献をしている本会は、そのルールに沿った地道な活動を行ってしかるべきポストを得る必要があると思う。また YGA についても積極的に参加していただきたいと思う。」

**嘉村敏治監事**「日本は AFOFG のエデュケーショナルファンドの募金として 1,000 万円程度集めており、メンバー国でトップである。そのことも強調してほしい。」

(3) AFOFG Fellow について

**木村正理事**「台湾の Yu-Shin Yang 先生が推薦され、岡井崇先生は推薦されなかった。」

(4) ネパール地震義捐金について [資料：渉外 3]

6月17日時点で、会員などから 4,522,352 円の義捐金が寄せられている。

## 6) 社 保 (青木大輔理事)

(1) 会議開催

6月23日に第2回産婦人科手術評価検討ワーキンググループを開催の予定である。

**青木大輔理事**「外保連のなかに作られた医療技術の新しい評価軸検討ワーキンググループのなかで、手術の迅速度を評価軸として認められるための大事な会議である。」

(2) アクチノマイシン D (コスメゲン) に関する要望書の件 [資料：社保 1]

**青木大輔理事**「この薬品は 1 社だけの製造であるが、これで病気を治してきた経緯もあり製造停止となると問題である。なお要望書は医政局長あてとしたい。」

**藤井知行理事**「海外の会社では作っていないのか。」

**青木大輔理事**「現在の薬価では国内で安定供給できないということである。」

本件につき特に異議はなく、全会一致で承認された。

## 7) 専門医制度 (吉川裕之理事)

#### (1) 日本専門医機構

①6月1日に臨時社員総会が開催され、阪埜浩司先生が出席した。〔資料：専門医1〕

②6月29日に第1回社員総会が開催され、藤井知行先生が出席する。

**吉川裕之理事**「機構では財務委員会の扱いが問題となっているが、サブスペシャリティの扱いなど、実務的なテーマはまだ議論されていない。指導医募集は6月30日締切、研修プログラムモデルは承認されてホームページに掲載している。」

**小西郁生理事長**「機構の社員総会では、更新料やプログラム認定料設定などを含めた予算について承認を得た。財務は大事ということで財務委員会の委員構成を見直して進めることになった。サブスペシャリティ学会についてはもう少し時間をいただきたい。」

**竹田省理事**「外科専門医は手術を行わなくなると総合診療科になるという話もある。」

**小西郁生理事長**「更新基準は各科ごとに個別に設定されており、産婦人科はお産を扱わない人も手術を行わない人も専門医の対象となる考え方にしており、機構から承認を得ている。」

**木村正理事**「研修プログラムの都市型、地方型というネーミングは、専攻医の流れに影響を及ぼさないか。」

**小西郁生理事長**「この表現は機構が決めたものであるが、これがマイナスの影響を及ぼさないように検討をしている。」

**齋藤滋特任理事**「都市型、地方型で分けられると専攻医は都市型に集まりやすくなるので、配慮してほしい。また都市型でも地方との交流を組み入れるなどの検討をお願いしたい。」

**小西郁生理事長**「機構としてもこの点に配慮して慎重に進めようとしている。同時に地方でも魅力ある研修プログラムをお願いしたい。」

**吉川裕之理事**「研修プログラムにおいて地域医療に配慮しているのは産婦人科だけである。研修プログラムで地方に人を誘導するのは無理だろう。むしろ問題があるのは基幹施設単独で施設群として認めることではないかと考えている。」

#### 8) 倫理委員会（苛原稔委員長）

##### (1) 本会の見解に基づく諸登録（平成27年5月31日）

- ①ヒト精子・卵子・受精卵を取り扱う研究に関する登録：67 研究
- ②体外受精・胚移植の臨床実施に関する登録：600 施設
- ③ヒト胚および卵子の凍結保存と移植に関する登録：600 施設
- ④顕微授精に関する登録：546 施設
- ⑤医学的適応による未受精卵および卵巣組織の採取・凍結・保存に関する登録：24 施設
- ⑥非配偶者間人工授精に関する登録：15 施設

##### (2) 着床前診断に関する臨床研究申請・認可について

6月8日現在申請478例〔承認399例、非承認8例、審査対象外23例、取り下げ5例、照会24例、保留1例、審査中18例〕（承認399例のうち12例は条件付）〔資料：倫理1〕

##### (3) 母体血を用いた出生前遺伝学的検査に関する臨床研究施設認可状況—5月22日現在計52施設 平成27年5月22日付 岐阜大学医学部附属病院（岐阜県）

##### (4) 会議開催

- ①6月2日に「第1回子宮移植に関する小委員会」を開催した。
- ②7月14日に「平成27年度第2回着床前診断に関する審査小委員会」を開催する予定である。その際、重篤な遺伝性疾患の診断法について、実施希望施設との意見交換を行う予定である。

#### 9) 教育（八重樫伸生理事）

(1) 会議開催

2015. 5. 29	第 1 回教育委員会
2015. 5. 29	第 6 回用語集・用語解説集編集委員会
2015. 6. 5	用語集・用語解説集 生殖分野打合せ会
2015. 7. 7	第 3 回用語集・用語解説集コアメンバー打合せ会
2015. 8. 27	第 4 回用語集・用語解説集コアメンバー打合せ会
2015. 8. 28	第 2 回教育委員会
2015. 8. 28	第 7 回用語集・用語解説集編集委員会

(2) 書籍頒布状況

電子版：6月9日現在

必修知識 2013 単体	305
用語集単体	136
必修知識 2013+用語集	204
合計	645

書籍版：6月9日現在

	頒布数 (冊)
産婦人科研修の必修知識 2013	2,914
用語集・用語解説集改訂第 3 版	2,868
若手のための産婦人科プラクティス	2,913
専門医筆記試験に向けた例題と解説集 2014	1,025
専門医筆記試験に向けた例題と解説集 2014	

(3) 平成 27 年度専門医認定筆記試験問題作成委員会

6月4日までに各分野責任者宛の問い合わせ事項に対する回答を受領したので、専門医制度委員会に原稿を提出した(6月5日)。今年の専門医認定筆記試験問題作成にあたっては 54名の先生方にご協力をいただいたことに深く感謝したい。

(4) 2017 年海外派遣者募集について

①ACOG (American College of Obstetricians and Gynecologists) : 派遣予定 6 名

②TAOG (Taiwan Association of Obstetrics and Gynecology) : 派遣予定 5 名

の募集を 6 月 30 日学会事務局必着で行っている。

(5) 書籍発刊に関して

①産婦人科研修の必修知識 2016

当初 2015 年発刊予定であったが、2016 年春の発刊を目指している。一部原稿については、印刷所に渡して作業を進めている。

②低用量経口避妊薬、低用量エストロゲン・プロゲステロン配合薬ガイドライン(OC・LEP ガイドライン) 2015 年度版

女性ヘルスケア委員会内小委員会で作成の原稿を 6 月 3 日に受領した。今後の校正・発刊作業・販売にあたっては女性ヘルスケア委員会の先生方の指示を受けて、教育委員会事務局担当者が担当する。

(6) 西日本高速道路エリアパートナーズ倶楽部奨学金について

西日本高速道路エリアパートナーズ倶楽部の総会が7月8日に開催される予定との通知を受けた。奨学金について動きがあれば今後の理事会等で報告する。

10) 地方連絡委員会 (平松祐司委員長) 特になし

Ⅲ. 理事会内委員会報告並びに関連協議事項

1) 広報委員会 (加藤聖子委員長)

(1) 会議開催 なし

(2) JOB-NET 公募情報について

①JOB-NET 事業報告 [資料：広報1]

(3) ホームページアクセス状況について[資料：広報2]

(4) ACOG Website 会員専用ページログイン人数について [資料：広報3]

(5) アネティス夏号について [資料：広報 無番]

2) 未来ビジョン委員会 (平松祐司委員長)

(1) レジナビ出展について [資料：未来ビジョン1]

大阪 (研修医向け) : 平成27年5月31日 (日) 12:00~17:00

場所: コングレコンベンションセンター

東京 (研修医向け) : 平成27年6月14日 (日) 12:00~17:00

場所: 東京ビックサイト

平松祐司委員長「大阪320名、東京566名の参加があり、産婦人科ブース来場者は合わせて19名であった。

次回以降については次の委員会で検討いただきたい。」

(2) HUMAN+副読本「Baby+ お医者さんがつくった妊娠・出産の本」について

平松祐司委員長「初稿が終わり、早急に発刊していきたい。」

(3) HUMAN+ Web サイトの立ち上げについて

基本方針: HUMAN+WEB, Baby+Web の2つに分ける

- ・ HUMAN+WEB: 手帳 HUMAN+と全く同じ内容掲載+リクルーティングコンテンツの掲載 (すでに完成している LLS WEB を移動). 広告なし
- ・ Baby+WEB: 副読本 Baby+, その他のオリジナルコンテンツを掲載. 広告掲載あり
- ・ Baby+ WEB への Q&A コンテンツの掲載

平松祐司委員長「HUMAN+の商標問題については、準備が終わりこれに関係会社で調整している。」

(4) HUMAN+ 女と男のディクショナリーのアンケート集計結果および注文状況について

[資料：未来ビジョン2、3]

**平松祐司委員長**「これを成人式や学校で配ることへの賛成意見は多く、また世代別冊子の要望などがあつた。この事業は、HUMAN+の売上金と Baby+の広告収入で運営し、学会・リクルート・ハーゼストの信頼関係のもと、学会からの支出はないなかで2社は数年間は赤字覚悟で対応いただける仕組みになっている。また行政も注目しており、国民手帳に育てて行こうという動きもあるので、次期委員会では以上の経緯を踏まえて売上を伸ばしていただけるようお願いしたい。」

### 3) 震災対策・復興委員会 (岩下光利委員長)

(1) 本会が実施している福島への産婦人科医師派遣について、内堀雅雄福島県知事が6月8日に事務局に来局し、小西郁生理事長に感謝状を手交した。[資料：震災対策1]

### 4) 診療ガイドライン運営委員会 (岩下光利学会側調整役)

(1) 産科編委員会 (板倉敦夫委員長)

①会議開催

7月15日に第3回委員会を開催する予定である。

②産婦人科診療ガイドライン-産科編2014」頒布状況について(6月9日現在)

書籍版：10,063冊

書籍版+ID/PW付き：4,324冊

電子版ダウンロード：1,913件

(2) 産科編評価委員会 (増崎英明委員長) なし

(3) 婦人科外来編委員会 (小林浩委員長)

①会議開催

7月3日に通算第6回委員会、7月31日に通算第7回委員会を開催する予定である。

②「産婦人科診療ガイドライン-婦人科外来編2014」頒布状況について(6月9日現在)

書籍版：6,077冊

書籍版+ID/PW付き：3,474冊

電子版ダウンロード：1,559件

(4) 婦人科外来編評価委員会 (青木大輔委員長) なし

### 5) コンプライアンス委員会 (工藤美樹委員長)

(1) 「利益相反に関する指針」および同運用細則について [資料：コンプライアンス1、2]

**工藤美樹委員長**「本日の定時総会第5議案は『利益相反に関する指針の改定に関する件』であるが、そのなかの『II. 対象者』の②について、『委員会委員のなかには非会員がいる場合もあるので、非会員という表現にしているようだが、これではその前に書かれている、非会員ではありえない本会の役員や学術集会長などについてもかかるように読まれてしまうのでよくないのではないか』との意見があつた。修正案として『本会の役員、学術集会長、次期学術集会長、次々期学術集会長、本会に設置されたすべての委員会委員長・委員で非会員を含む(以下「役員等」という)』としてはどうかと思うが、みなさんのご意見をいただきたい。」

**藤井知行理事**「①で本会の会員としているので、実際問題として非会員の学術集会長がいるかどうかは別として、指針としてはこのままでよいのではないか。」

**佐川典正議長**「学術集会長は会員しかたれないというのは定款などに書かれているが、現在の指針案だとそれと矛盾する。運用上はこのままでも問題ないとは思いますが、総会でその矛盾点を突かれると混乱するので、ここで理事会としての判断と態度を決めておいていただきたい。」

小西郁生理事長「現在の指針案の表現はよくない。様々な COI の規程を見ているが、非会員についてこのように書いてあるものはない。」

吉川裕之理事「②は非会員の委員会委員、とだけ書けばよい。この指針は学術集会などの発表者と役職就任者をまとめて書いてあることで分かりにくくなっているのではないか。」

海野信也特任理事「それはVI. 実施方法の部分で定義づけられている。②については『・・・委員会委員（非会員を含む）（以下「役員等」という）』とすればよいのではないか。」

工藤美樹委員長「②の非会員が委員会委員のみにかかる内容の案にして、理事会で承認されるならば、その案を定時総会で諮ることにしたい。」

小西郁生理事長「現在の指針案のII. 対象者の項目は、非会員という文言が何度も出ており、非会員のことばかり書いているようで、どうも収まりがよくない。」

杉山徹理事「②で非会員の委員について規定すれば、③④は現指針を変更しなくてよいのではないか。」

藤井知行理事「対象を本会の会員としている①を外して、②～⑤は会員、非会員を含むものとして規定してはどうか。」

木村正理事「主旨はみんな理解していると思う。①を削除して②～⑤は『・・・する者』として本日の定時総会に諮ればよい。」

岩下光利副理事長「定時総会では、第5議案の修正案を執行部側から提出することにして、その修正案を諮るということになる。」

小西郁生理事長「以上の修正を入れた資料を作成し、総会では当日配布資料として配りたい。」

水沼英樹委員長「I. 指針策定の目的のところ『本会が行うすべての事業』と規定してある。そうであれば対象者なども本会のすべての活動に関わる者ということになるので、細かく規定する必要はないのではないか。」

工藤美樹委員長「実際はその通りであるが、現行の指針にも対象者の項目があり、そこで内容を説明している。改定案でもそれを踏襲したい。ところで運用細則のなかにも非会員という表現があるが、そこは変更しなくてもよいか。」

小西郁生理事長「変更の必要性はないと思う。」

峯岸敬理事「本会のすべての活動に関わる者が対象となると、修正案では、①を外す訳にはいかないのではないか。役員でない会員についてはどう考えるのか。」

藤井知行理事「会員でも発表などを行わない人は出さなくてもよい。」

峯岸敬理事「発表などを行わなくても会員であれば、COI に抵触することは起こりえるのではないか。」

藤井知行理事「本会の事業に関係する、ことが前提なので、会員であるだけで規定されるものではないと思う。」

久具宏司副委員長「修正案だと対象者は発表や論文を出す先生は対象になるが、一般の本会会員は対象にならない。一方、I. 指針策定の目的では、本会に関わるすべての活動が対象であり、対象者を限定したままでこの目的をカバーすることができるのかは不安要素である。」

藤井知行理事「そうであるのなら、⑦として『その他本会が必要と認める者』を入れればよい。」

工藤美樹委員長「III. 対象となる活動の内容をみると、対象者として本会会員を入れておいた方がよいように思う。」

吉川裕之理事「公開セミナーや本会の研修会とは言えないが本会が関係している会の存在を考えると、対象者として本会の会員を入れておくと、すべての事業でCOIの申告を求められることがあることを言えるのでよいのではないか。」

苛原稔理事「COIは会員全員にかかるものであり、委員や事務局職員などは非会員も含むということが分かるようになっていればそれで十分であると考え。」

青木大輔理事「そうすると『②～⑤は非会員を含む』というように書いておけばよい。」

海野信也特任理事「①を『本会の会員および本会の活動に関与する非会員』とすればどうか。」

久具宏司副委員長「現在の改定案は、①～⑥が重ならないように書式を重んじたものになっており、その考え方を受け入れるかどうかである。」

小西郁生理事長「そこはあまり重んじなくてもよいと思う。以上出てきた意見をまとめて、総会の修正案としたい。」

定時総会で第5議案の修正案を提出することについて特に異議はなく、全会一致で承認された。

6) 医療改革委員会 (海野信也委員長)

(1) 地域基幹分娩取扱病院重点化プロジェクトについて

海野信也委員長「本プロジェクトの内容説明を日本産婦人科医会の常務理事会で説明し、医会もこのプロジェクトに参加いただけることになった。」

7) 男女共同参画・女性の健康週間委員会 (片渕秀隆委員長) 特になし

8) 若手育成委員会 (齋藤滋委員長)

(1) 会議開催

①5月29日に第1回若手育成委員会を開催した。

②6月19日および7月17日に、サマースクール若手委員打合せ会を開催する予定である。なお、7月17日には機器協力会社も含め実技実習を行う。

(2) 産婦人科サマースクールに関連して

第9回産婦人科サマースクールについては、6月15日締め切りで募集を行っていたが、学部5年生、6年生、初期研修医2年目については応募が募集人数を上回ったためこれ以降申し込まれても参加が難しい旨を6月9日に応募画面ならびに学会ホームページでアナウンスを行った。

6月10日午前10時00分現在受付状況

参加種別	申込者数
医学部学生 (5年生)	72
医学部学生 (6年生)	59
初期研修医 (1年目)	91
初期研修医 (2年目)	126
合計	348

(3) 産婦人科スプリング・フォーラムについて

来年以降の開催について淡路夢舞台より申し出があったので、6月16日に事務局長、次長が担当者と面談し開催可能かどうかを検討する。

9) 臨床研究審査委員会 (水沼英樹委員長)

水沼英樹委員長「昨日、1件申請を受けた。これについては、受付は現委員会、審査は新委員会に対応することとしたい。」

10) 医療安全推進委員会 (竹田省委員長) 特になし

11) 公益事業推進委員会 (竹下俊行委員長) 特になし

12) 情報管理委員会 (久保田俊郎委員長)

(1) 齋藤英和会員より日本産科婦人科学会周産期登録データベース使用申請があった「生殖補助医療により出生した児の長期予後と技術の標準化に関する研究」について審査を行い、6月10日に審査結果(承認)を通知した。[資料: 情報管理1]

### 13) 婦人科領域のロボット支援下腹腔鏡手術に関する委員会（井坂恵一委員長）

(1) 会議開催 なし

### IV. 平成 27 年度定時総会運営について

(1) 代議員からの質問・要望事項 [資料：総会 1]

**佐川典正議長**「専門医制度で、どこが基幹施設になるのかは、専門医の養成やグランドデザイン 2015 の関係においても重要である。可能ならば地方委員会などを通してどこが基幹施設になるかの調整を行うことはできれば地域の周産期医療体制の確保にはよいのではないかと。」

**小西郁生理事長**「その通りである。地域の医療を守ることが前提にあつて機構の病院群による研修体制が組まれている。各地域に応じた形の研修であるべきと思う。」

**佐川典正議長**「施設申請は、各地方委員会での調整を行った上で行えるとよいと思う。」

**吉川裕之理事**「各都道府県で基幹施設の申請見込みの調査を行い、偏りがあるようだと調整を図ることはありえる。そうしないと専攻医が迷惑することになるかもしれない。」

**海野信也特任理事**「各都道府県で協議が行われる場合、グランドデザイン 2015 の内容を検討いただいて、研修環境の良い病院を作っていただくことをお願いしたい。その際には必要ならば医療改革委員会から状況の説明を行うことも考えたい。」

### V. その他

以上